

令和8年度前学期 社会人公開授業

科目名	岐阜にまつわる東洋史
開設学校名	岐阜大学
講師	地域協学センター 塚本 明日香（つかもと あすか） 教授
初回予定日	2026年4月14日（火）
授業時間	毎週火曜日 5時限目 16時30分～18時00分（全15回）
主会場	岐阜大学柳戸キャンパス 全学共通教育講義棟 37番教室
聴講方法	対面授業
科目内容	「岐阜」の名前だけでも意外と奥が深い。 日常的に使用している名前や目にしての出来事について、その背景を歴史の面から知り、ものの考え方の一つとして歴史学の手法を知ることによって視野を広げてもらいたい。 導入として「岐阜の由来」に関連する古代中国や中世日本を取り上げ、そこから日本建築史をベースにした技術史を中心に話を展開する。
注意事項	

授業の開催日程

回	日付	講義テーマ
第1回	4月14日	ガイダンス（全体概論・レポート作成の注意点）
第2回	4月21日	岐阜の由来の検証（歴史の調べ方・織田信長の名づけの検証①元ネタ確認・②信長が「名付けた」のか？）
第3回	4月28日	義婦山伝説と「岐」のはなし（地名の変遷・義婦山伝説の検証・「岐」のはなし（周の文王））
第4回	5月12日	「阜」のはなしと禅僧の役割（「阜」のはなし・儒教の広がり・禅僧の役割）
第5回	5月19日	仏教の伝播と仏塔の形（仏教の伝播・さまざまな仏塔の形・日本への仏教公伝と仏塔の形）
第6回	5月26日	技術や形の変遷（国際情勢と技術交流・飛騨の匠・奈良の大仏と岐阜の国宝）
第7回	6月2日	神と仏の関係（神仏習合のはじまり・白山信仰・神社建築と寺院建築）
第8回	6月9日	建築の国風化（平安時代の社会情勢と仏教・寝殿造の特徴・懸造の発生と日龍峯寺）
第9回	6月16日	大陸文化の再導入（日中関係の展開・新たな建築様式①和様と大仏様・②禅宗様（唐様）と永保寺）
第10回	6月23日	内部空間の発達と道具の変化（書院造の発生と江馬氏下館跡・茶室の発展・木材加工道具の発達）
第11回	6月30日	南蛮技術の受入れ（刀鍛冶の隆盛・製鉄技術の革新と鉄砲伝来・鉄砲の国産化）
第12回	7月7日	城と城下町（館から城へ・岐阜城・町屋の形）
第13回	7月14日	太平の世の技術（民家の形と白川郷の合掌集落・大工道具の分化と和時計・暦の改訂）
第14回	7月21日	水運とパンデミック（川の水運・人が運んだ病気（痘瘡）・日本の医術・漢方から蘭方へ（コレラ））
第15回	7月28日	地震科学の発展（古地震と鯁絵の世界・濃尾地震と近代地震学・2つの東海地震と情報伝達）

※各回の進捗や質問に応じて内容は変更する可能性がある。